



R18
ADULT ONLY

18歳未満閲覧禁止

先日
取引先から
この限定酒を
もらったんだ

どうせなら
鯉穂君と
飲みたいと
思ってたな

そおら
こぼすんじや
ないぞお

うはははは

なんて
馬鹿げた行為
なの…

注文通りに
下の毛を
剃ってきたのは
偉かったぞ

本物のわかれ酒は
わかめ抜きに限る

それをあわび酒とも言うが

知らないわよ

通とかあるの？

では…
頂こう

んゝ
剃ったのは
昨晚か？

日中で
生えてきた
新たな陰毛が
口に当たるが…

それも
また一興か

恥ずかしいこと
んっ
言わないでっ…

永久脱毛してみるか？
金なら出してやるぞ

結構よ！

ならんなあ

食材も女も同じ

適切な料理を
してやることで
味も価値も劇的に
跳ね上がるものだ

君は私が
この半年で
たっぷりと
愛情をかけて
調理しー

極上の女に
造り変えて
やるからな

それでも
アタシは
この男に隷従
するしか無い

何言ってるのよ
この変態ジジイ……!



なあに
これも投資だ

こんないい店
潰しちゃならん

山根先生…！

大衆割烹 伊吹 店長
錦織 恵三

秘密の隠れ家的な
魅力を感じて
友人たちに
内緒にしすぎた…

今後は
どんどん紹介して
みるよ

舌の肥えた
奴らもいるが
君の腕なら
きっと大丈夫だ

本当に
ありがとうございます
ございます！

さて…

男と男の
大事な話も
済んだことだ

そろそろ
一献傾けても
よいかな？

鯉穂！

ああっ
もちろん
ですとも！

先生にお酒を
お出しして

…はい

：お持ち
致しました

大衆割烹 伊吹 店員
錦織 鯉穂

おお
これこれ
日本酒は
冷酒に限る

スッ

実は今回の件を
先生に相談しようと
勧めてくれたのは
鯉穂なんです

きっと
山根先生なら
力になって
くださるって

と、

と、

出来た妻を
持ったな恵三君

大事になさい

いや本当に私には
もったいないぐらい
最高の妻で：

いやいや
お似合いだぞ

真相は
この数日前――

すでにアタシが
山根に相談していた

それは可能だ

だが
条件がある

便宜を図る
対価に――

半年間私と
愛人契約を
結びなさい

無論
恵三君には
秘密でな

!?

聞かなかった
ことにしても
いいぞ？

愛する
“伊吹”が
潰れるのは
惜しいが……

飲食店とは
そういうものだ

あ愛人……
それって
つまり……

だが
君ら夫婦に
とっては
どうかね？

“伊吹”はこの世にただ一つの
大切な店だろうか？

そうだ…

子宝に
恵まれなかった
アタシたちが

子どもに
つける予定だった
名前を店につけた

伊吹
IBUKI

“伊吹”は
アタシたち夫婦の
子どもそのもの

私以外に
頼れる人間が
いるなら
そちらを
頼りなさい

あつ
待つて…

わっ…
わかりました
引き受けます

よろしい

ではまた
連絡する

ガラガラ

お見送り
ありがとう

平日の夜は
この通り
ほぼボウズ：
先生の紹介を機に
客足が伸びてくれると
いいんだけど…

だ大丈夫よ
山根：先生なら
なんだかんだ約束を
違えたりしないって

自信持つて！

なにより
あなたの料理は
とても美味しいから！

絶対
大丈夫！

鯉穂…

…ありがとう

鯉穂の「大丈夫」に
いつも救われてるよ

あなたにだけ
苦労はさせない

“伊吹”を
守るためなら

アタシも
戦うから—

そしてアタシは夫に
新しいパートと偽りー

平日の昼間から
山根の有する
マンションに
呼び出され

「くっ」

愛人として
肉体奉仕を
強いられている

「う」

「へ」
「れ」





しかし…
女の仕込みに
かけては
不得手なようだ

はっはっは



君の夫…恵三君は
実に優秀な職人だ

食材の仕込みは
丁寧できめ細やか



アタシのことを
悪く言うのは
百歩譲って
聞き流せるけど

恵三さんのことを
侮辱するのはやめて



上等な食材も
粗末な仕込みや
安価な器に載せられては
その価値は半減する

そこに転がる
安物の下着が
まさにそうだ

普段店で
出来ていることを
鯉穂君にもして
やるべきだと
言っているだけさ



率直な
批評だよ



素晴らしい

フフフ…
活きがいいな



高説どうも…

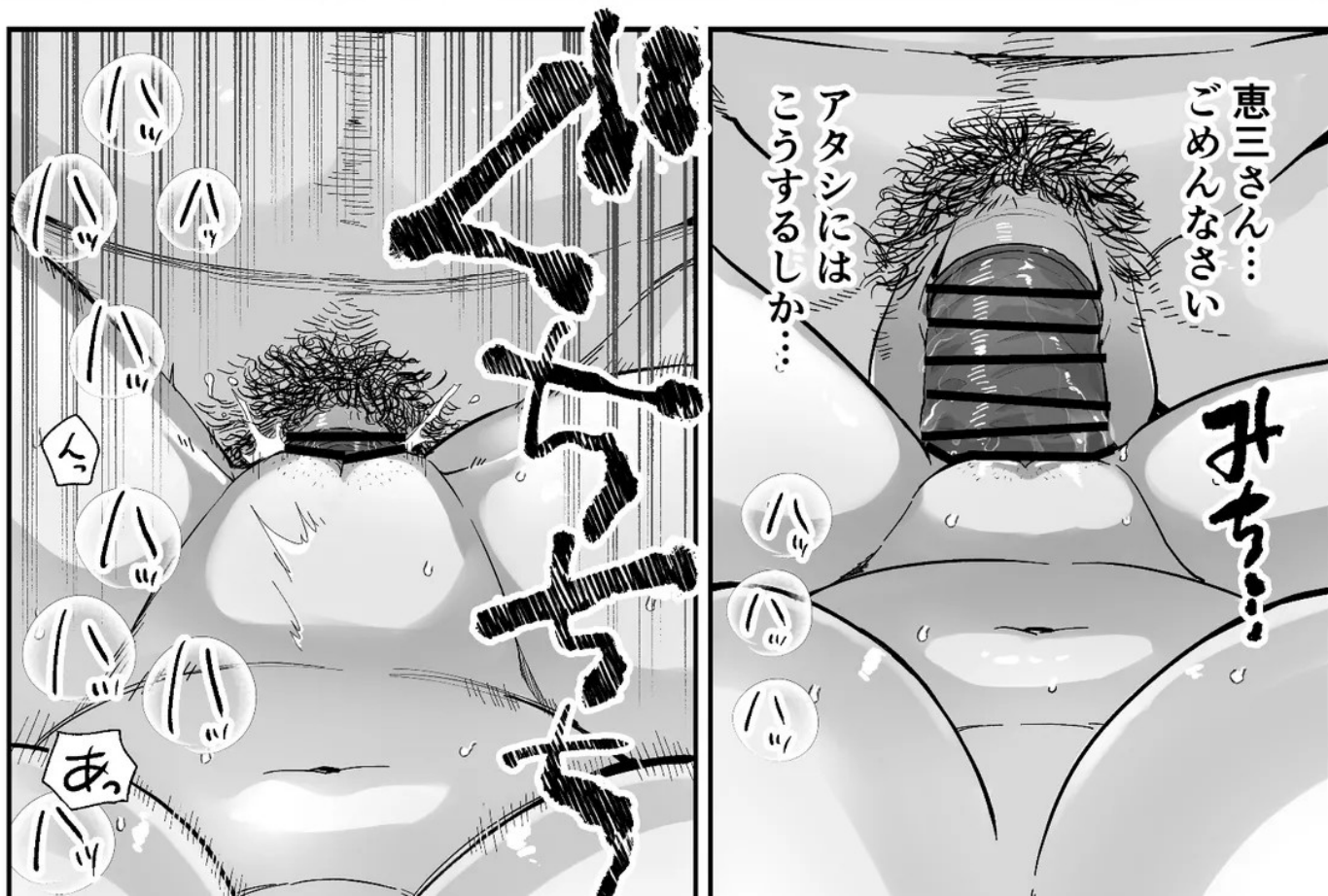
でも次言ったら
承知しないから

アッ



これは
仕込み甲斐が
ありそうだ

ぽかぽか





これが本当に
還暦超えた
おちんちん…!!

元気すぎる
でしょ…!!

君の
率直な批評が
聞きたい

どうかな？
恵三君のモノと
食べ比べてみて

月並みの
質問だが…

ニ
タァァ

こんな年寄りの
腰振りで
よがってくれて
嬉しいねえ

私も若い頃は
もっと機敏に
動けたんだがな

違うッ

コイツわざと
ゆっくり…

ナカが
順応し切る手前で
ストロークを…

ずり

が
ぶ
ぶ
ぶ

こんなの
知らない…

くおお

お

何度も
こじ開け
られる…!!

ん…!!

ん…



ふう…

若い頃より
それなりに女は
食ってきたが

締まりといい
濡れ具合といい
感度といい…



鯉穂君ほどの
名器は
いなかったな

それ…
褒めてる
つもり!?

もちろん

さらに
素晴らしいのは
その表情だ



罪悪と快樂の
アンビバレント…

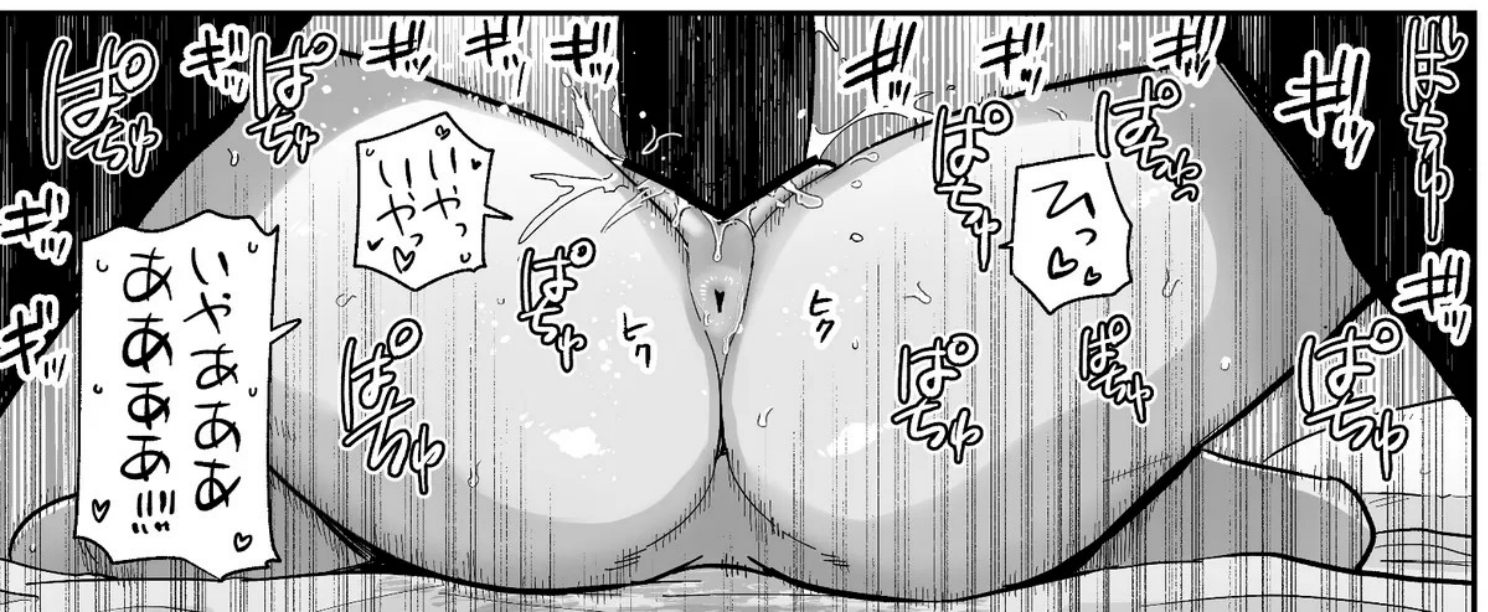
苦悶と恍惚の
アウフヘーベン

伊吹に
初めて訪れて
一目見たときから
確信していたぞ!

この
セレンディピティ
をな!



意味の
わかんない
人あふ

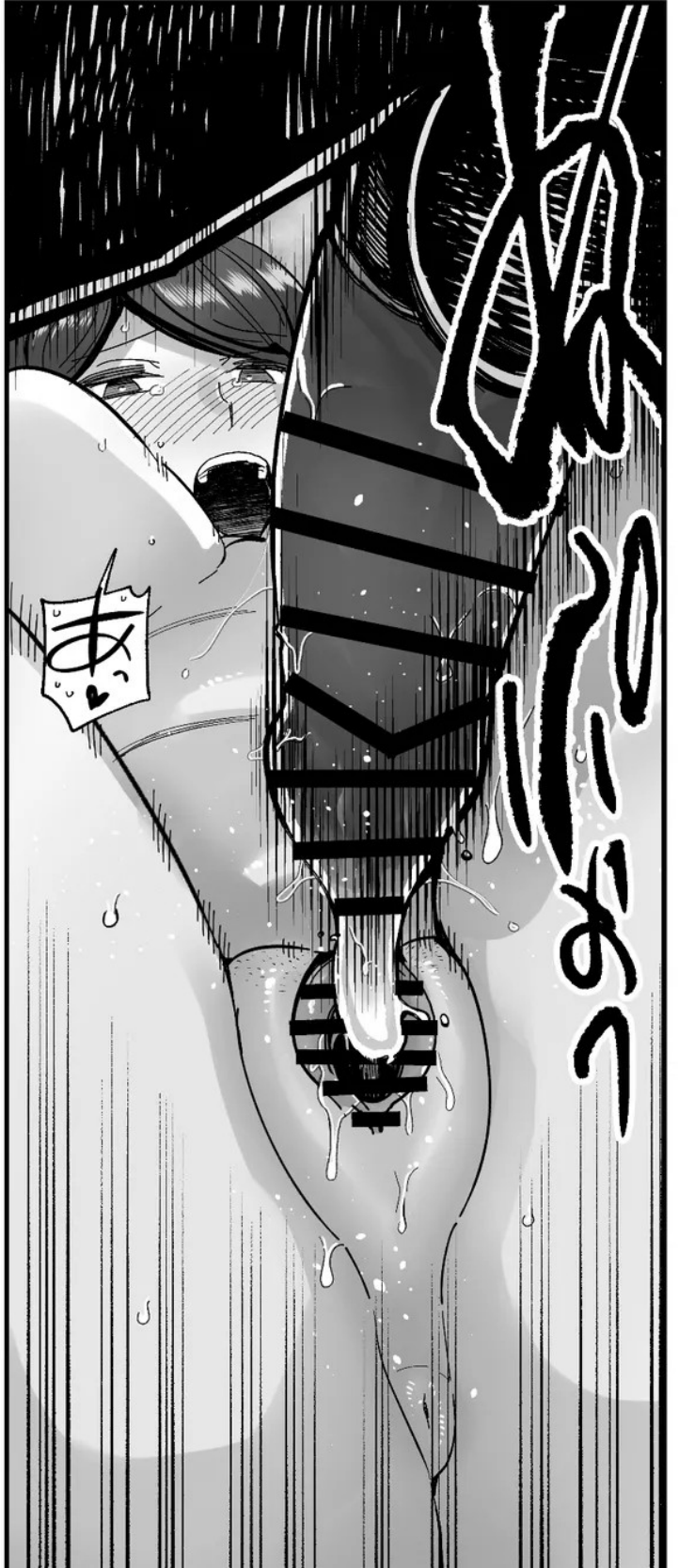
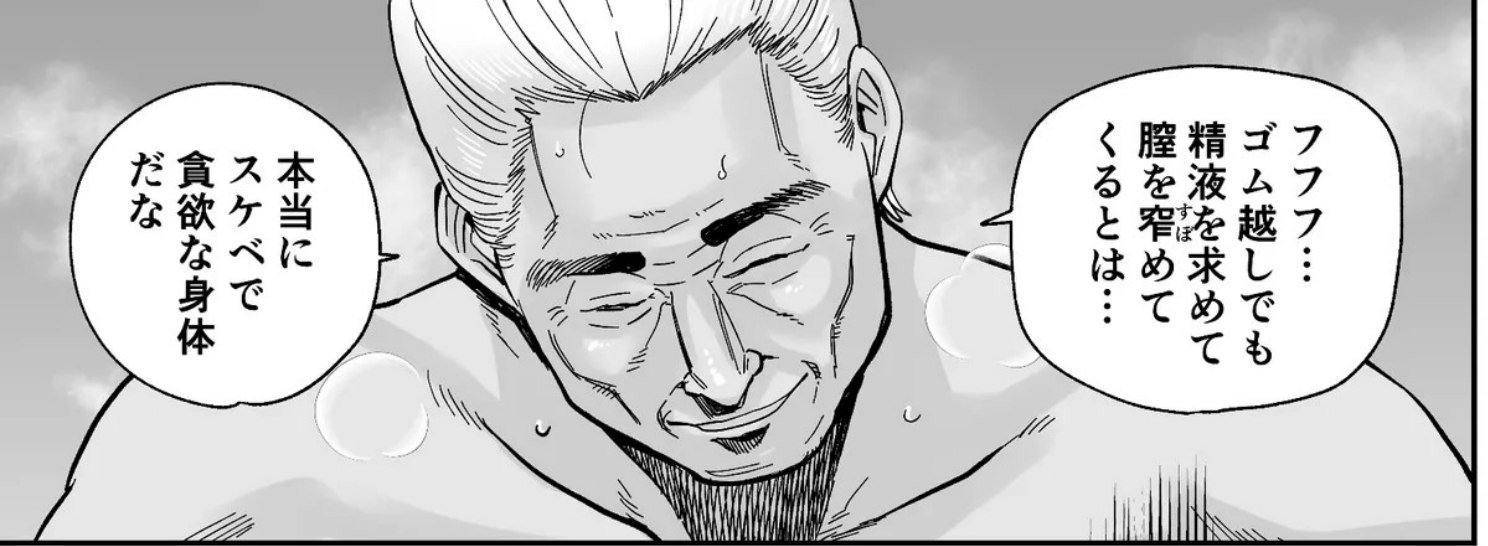




ゴムが無ければ
確実に妊娠
させられていた

そう
確信するほどの
量と勢いが

アタシの
奥を叩いた



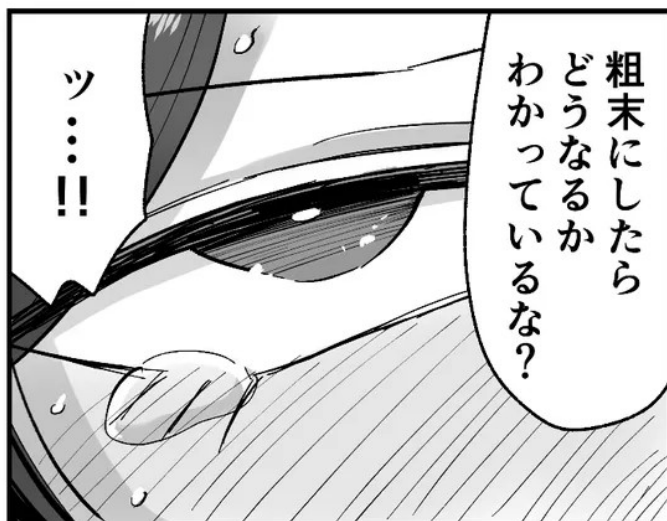


フェラが
巧くなれば
おのずと
飲むように
なるしな

上の口で
賞味して
いきなさい

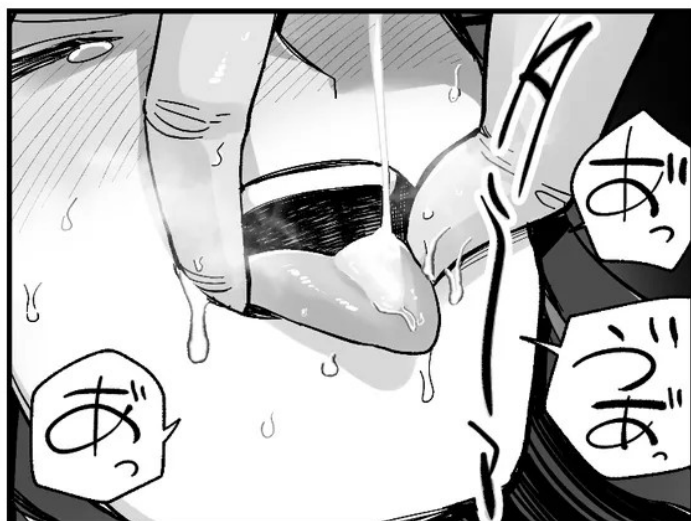
ぐわん

ふぁっ!
あっ!?



粗末にしたら
どうなるか
わかってるな?

ツ...!!



あっ
うっ

あっ



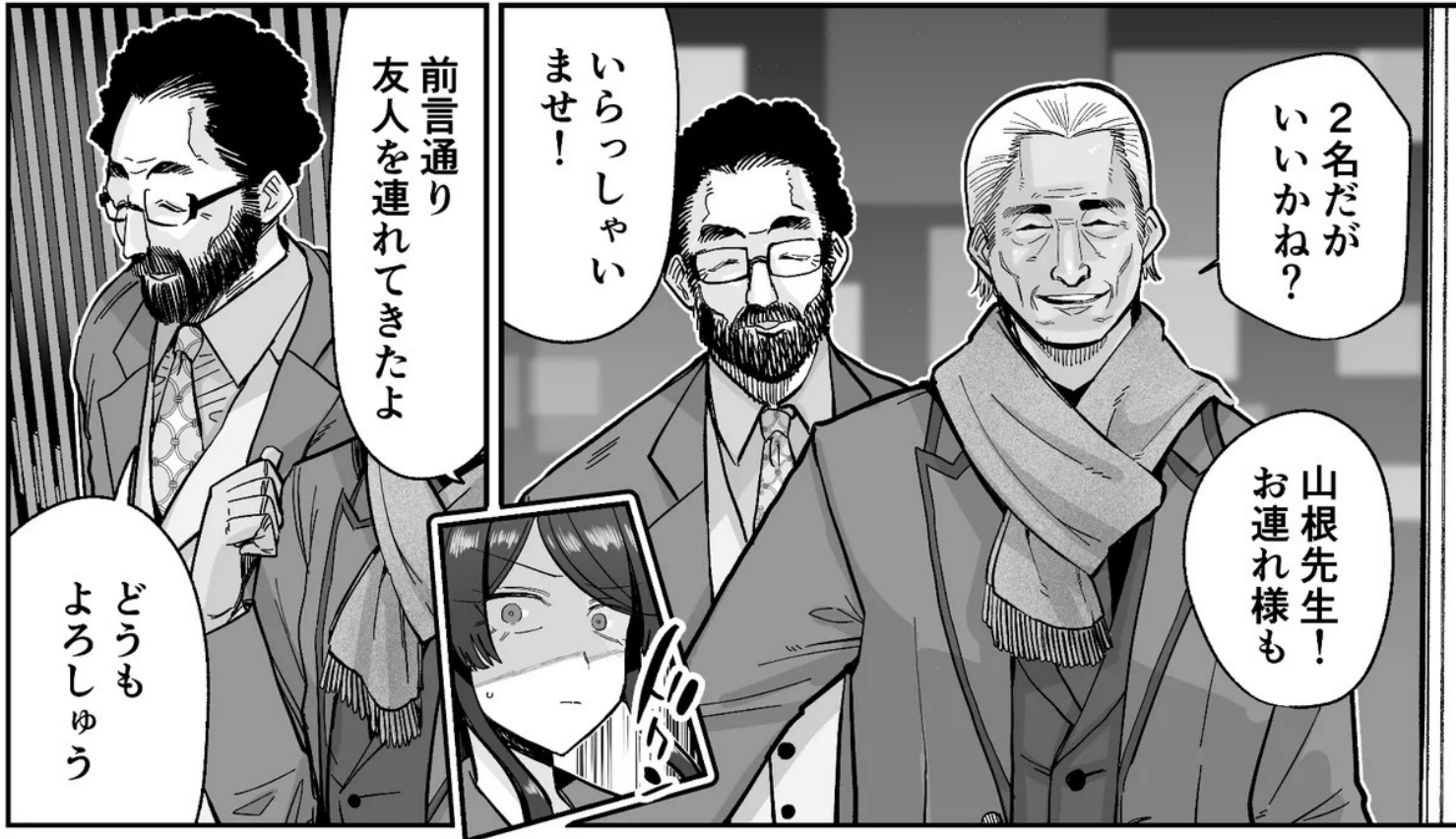
フハハハ

いい
飲みっぷりだぞ
鯉穂君

最低最悪の
味.....

ぐわん







じゃあ今度はぜひ
社員連れて来ますわ



いやー
浩ちゃん（ヒロ）が
気に入るのが
わかるわ
コースとかも
あるんすか？

事前にご予約
いただけたら
お応えできますよ

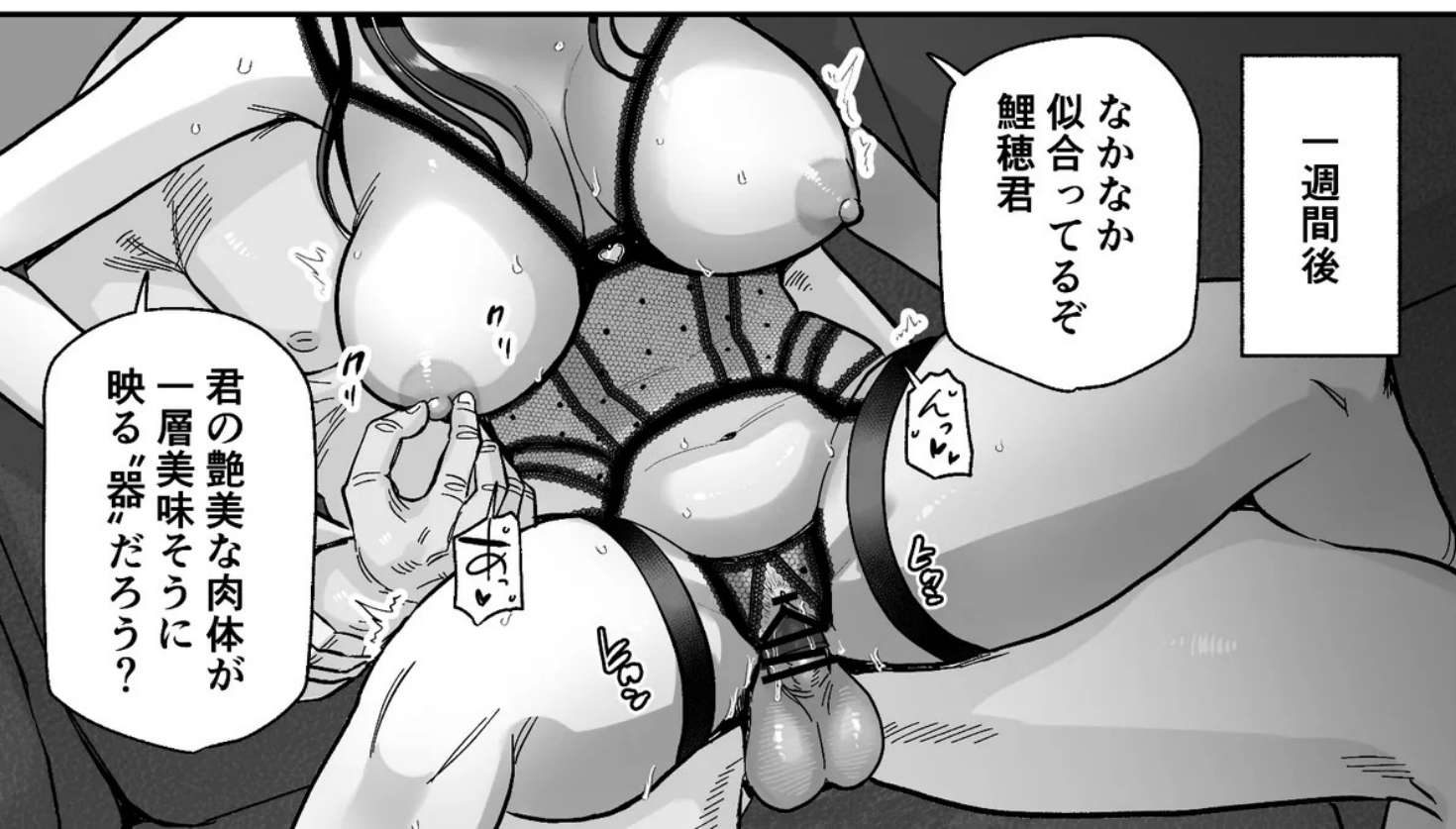


約束は
守らなアカン



口だけじゃなく
ちゃんと連れて
来てやれよ

当たり前や
ないか



一週間後

なかなか
似合ってるぞ
鯉穂君

君の艶美な肉体が
一層美味そうに
映る"器"だろう？



んん？
「プレゼントありがとう
ごさいます」だろう？



他にもいくつか
見繕ったから
今後着用しなさい

わっ
わっ
わかったわ...



ここ数日間で
山根は店に
何人も知人を
連れて来た

いずれも
経営者仲間や医師
会社役員といった
社会的地位と人脈を
有する人たちばかり



フフフ 少しは従順に
なったか？

違っ...

抵抗しても
無駄って
諦めてるだけ...

客足も
さることながら

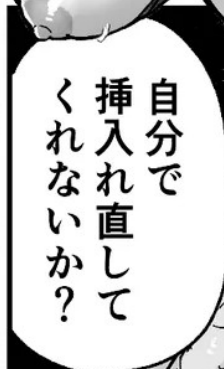
舌の肥えているだろう
お客様からの賛辞は――

夫が自信を
取り戻すのに
アタシが思うよりも
効いたようだった

恵三さんが
いきいきと
板場に付く
姿を見て

この屈辱も
少しだけ
報われる
思いだった





なんととしても
半年間を
耐え抜いて：

に
か
ち
に

升!

止

あ

あ、あ、

2

はん
はん



はっ

アタシも
この暗闇から
脱け出してみせる

いおっ

んまふまふ

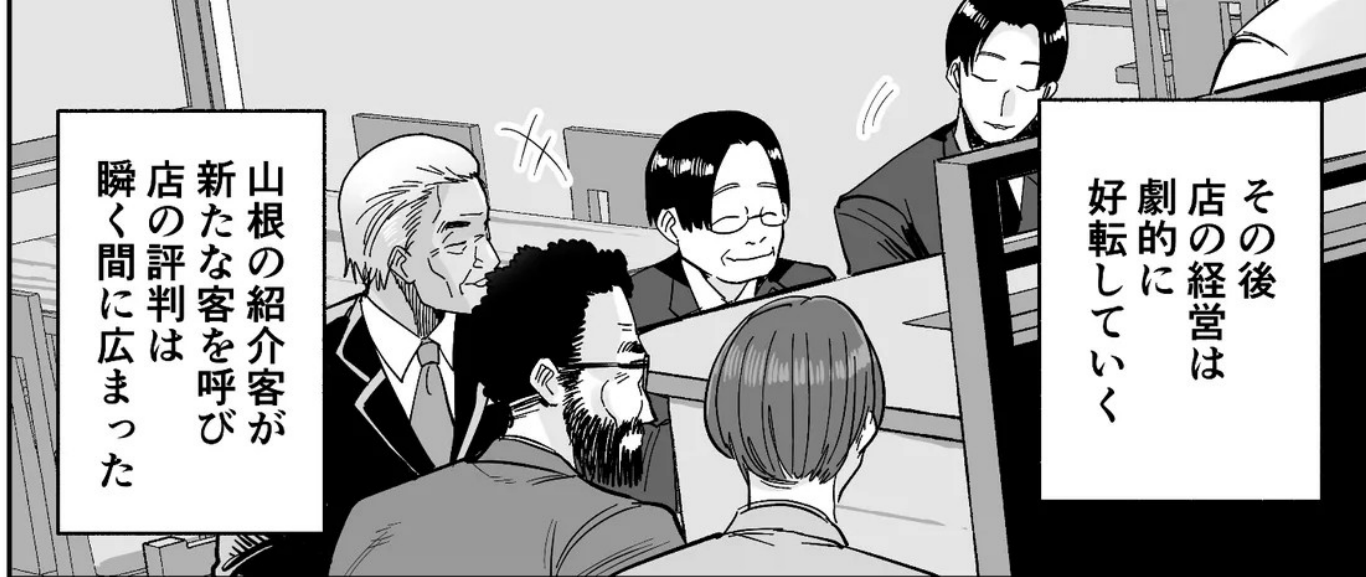
ほん

ぽん

ん、
あ、あ、あ、

ぼん

2



その後
店の経営は
劇的に
好転していく

山根の紹介客が
新たな客を呼び
店の評判は
瞬く間に広まった



恵三さんの腕が
認められたのだ



忙殺されつつも
閑古鳥が鳴く日々を
脱したことで

恵三さんの
仕事のモチベーションも
上がっている
ようだった



ついに週末には
予約で満席となり
来客を断るほど
盛況な店となった

そうなると流石に
2人で店を回すのは
限界となり
スタッフを雇った



その日は
アタシから
夫を誘った



ある晩



罪滅ぼし…
になることはない

恵三さん…

けれどせめて
上書きしたかった

ああ…

いによっ
鯉穂…



元々
夜の営みは
少なめだったが

山根の件や
店の忙しさで
ずいぶんと
ご無沙汰だった

うっ
あ

ちろ

ちろ

アタシは
恵三さんの手が好き

華奢な身体に
似合わず肉厚で

無数の
包丁傷と
タコ：

沁み込んで
消えない
魚と鉄の臭い

まさに
職人の手—

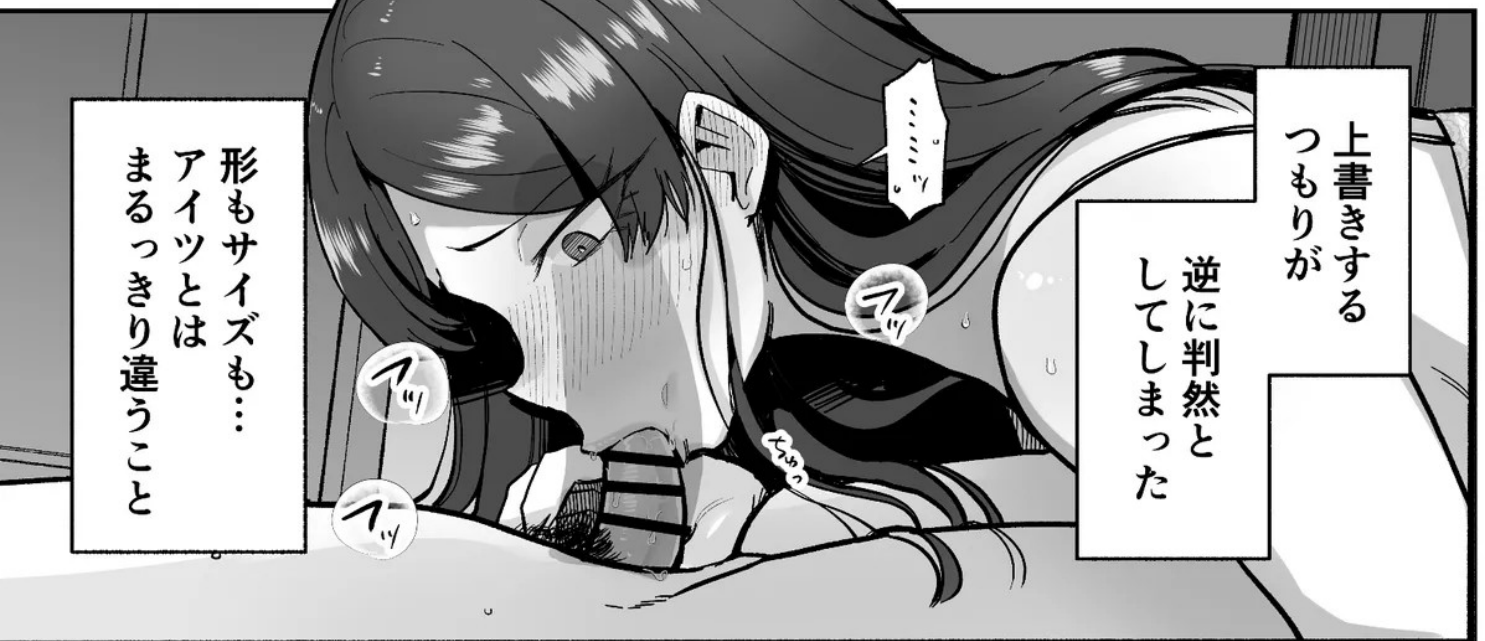
その全てが
愛おしい

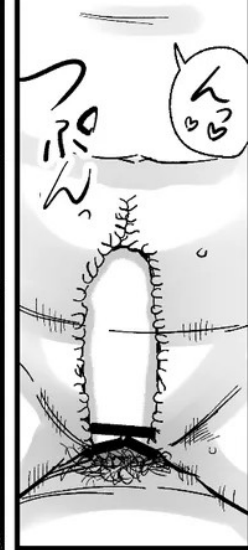
山根
なんかとは
全然違う

アタシが
愛してるのは
恵三さんだけ…

鯉穂…？

うああっ







辞めるにしても
引継ぎとかあるだろうから
すぐには無理かもだけどさ

そうだ…

恵三さんからは
本当のパートに
見えてるんだった

店の経営も
上向いて来てるしさ

まだ贅沢は
できないけれど

鯉穂の負担を
減らすことは
できるかなって

恵三さん…

もしも今
愛人契約を
辞めた
としても…

それに
今の「伊吹」の常連客は
ほとんど山根の関係者…

彼らがアイツの意向で
突然来なくなることも
十分考えられる

おそろく
山根は—
躊躇なく
秘密を
バラす…







馬鹿だった…

キレイにして
来たわよ…

私としては
浣腸も含めて
尻穴性交だと
捉えていたがな

ふざけッ！

だから今回は
セルフ浣腸で
我慢しただろう

勝負の前に
コンセンサスを
取れていなかった
こちらの落ち度だ

お陰で
ずいぶんと
待たされたが…

楽しみすぎて
全く萎えることが
なかったぞ

さあ
尻を広げて
見せなさい

わ…
わかってる
わよ

終わりを
早めるつもりが
逆により
過激なプレイを
通してしまった

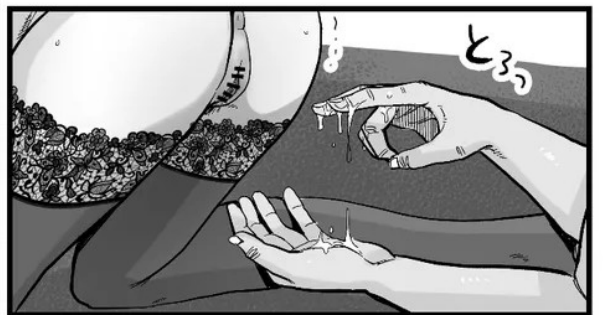


物欲しそうに
私の指の腹に
吸いついて
可愛らしいな…



力を抜け

私もケガは
させたくない

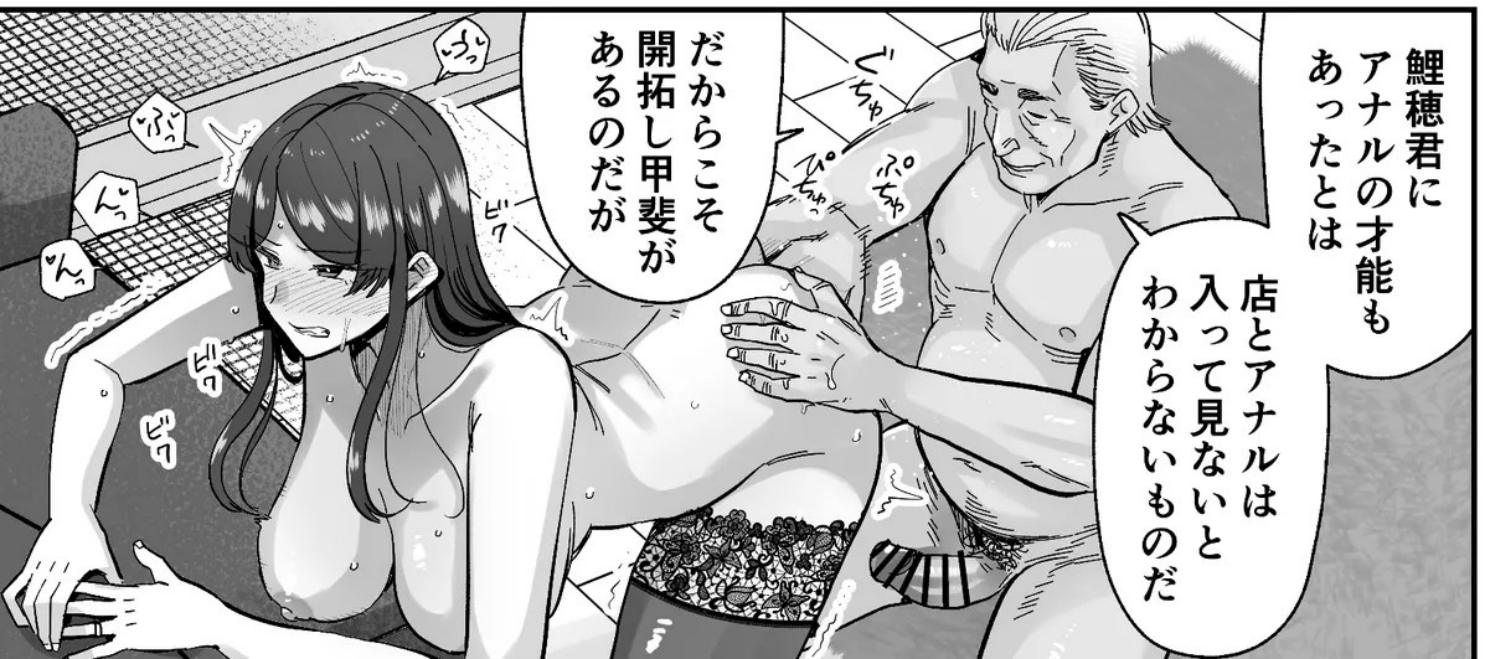


活発にうねって
私の指を神輿の如く
担ぎ入れてくれる…



どれ
中の方は…

おお関節ごとに
丁寧に出迎えて
くれるじゃないか



鯉穂君に
アナルの才能も
あったとは

店とアナルは
入って見ないと
わからないものだ

だからこそ
開拓し甲斐が
あるのだが

尻から得られる
快楽の種類は
謂わば「苦味」だ

それを
最初のうちは
クリトリスの
「甘味」の快楽で
和らげてやる

するといずれ
この苦味の
良さに
気づく…

あ
お
声…
出したく
ないのに…

意志が
負けるツー



私が贈った
ブランド化粧品や
海外美容サプリは
摂っているだろう？

下着なんて
明らかにグレードが
上がったわけだが—



しかし
鯉穂君はみるみる
美しくなっているが…

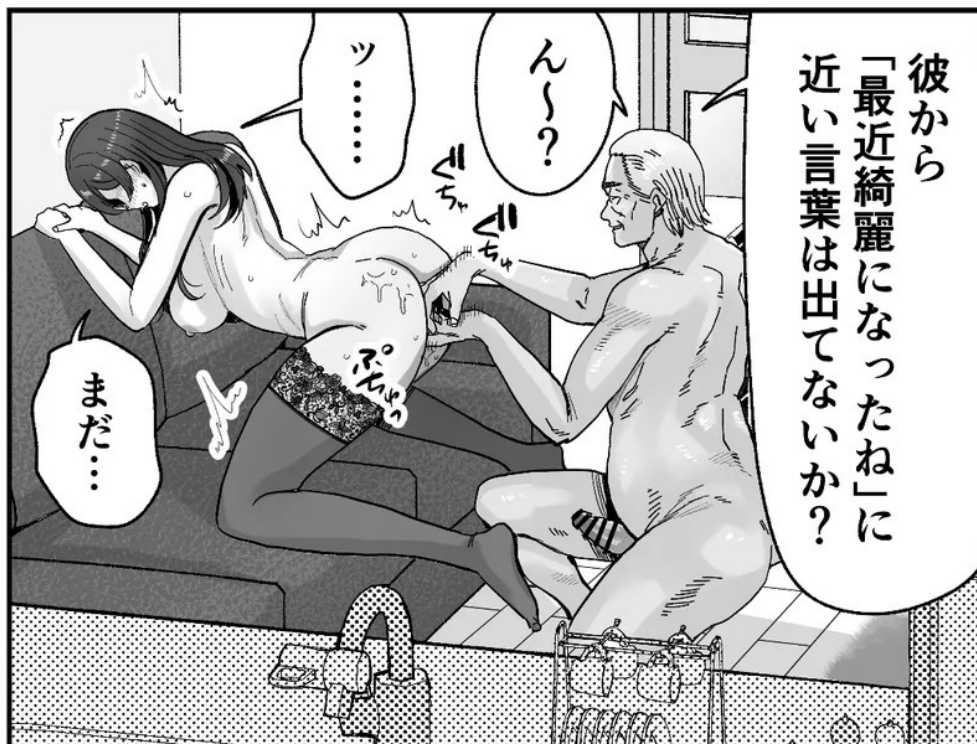
恵三くんは
君のそんな変化に
気づいているかね？

彼から
「最近綺麗になったね」に
近い言葉は出てないか？

ん？

ツ…

まだ…





…やはり
気づかないか

まあ彼は
仕事が恋人
だからな

……ッ！



ほうら
2本目もすんなり
咥え込んだぞ…



おっとこれは
侮辱じゃないぞ？
むしろ私は…

彼のあの
仕事熱心ぶりに
感心している
ぐらいだ



だがしかし—
伊吹の立て直しが
彼の勤勉さによる
ものだとしたら

その彼を
支えたのは
間違いなく
鯉穂君—

君の
献身だろうな

音ッ…こいつ

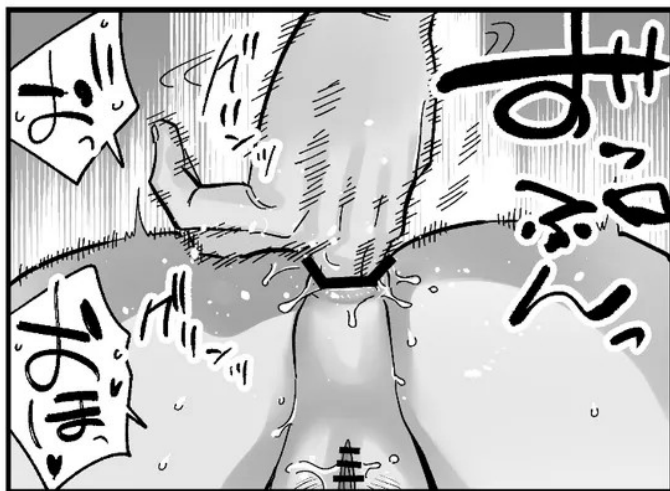
指を広げて
わざと立ててる

アタシの
羞恥心を
煽るためにッ…

んおっ

はっ

おっ



そうだな
期限付きとは
いえー

アタシは
この悪魔に身体を
売った

それなら
いつぞ

搾れるだけ
搾ってやるわ…!!

どれだけ
弄ばれようと

心だけは…
魂だけはー

ホカママ

絶対に
売り渡さない
から!!

絶対

にッ

うむ
プリプリで
新鮮

心地よい
蠕動だ

多くの体位は
マンコに
挿入のだから
当然マンコ用だ

しかし
アナルには
アナルに
適した体位が
あるのだよ

その1つが
これだ…

タコ
フグ
蛸や河豚を引く用の
包丁があるようにな



斜め上方向からの
グラインドにより
Gスポット裏と
ポルチオという
快感の鐘を
同時に撞き下ろす

頭の中で
鳴り響いて
いるだろうか？

ナニ
これえ…

ナニ
これえ…!?

その音色：
君の喉を介して

私にも
聴かせてくれ
ないか？







おかげで
私も
もう限界だ

は

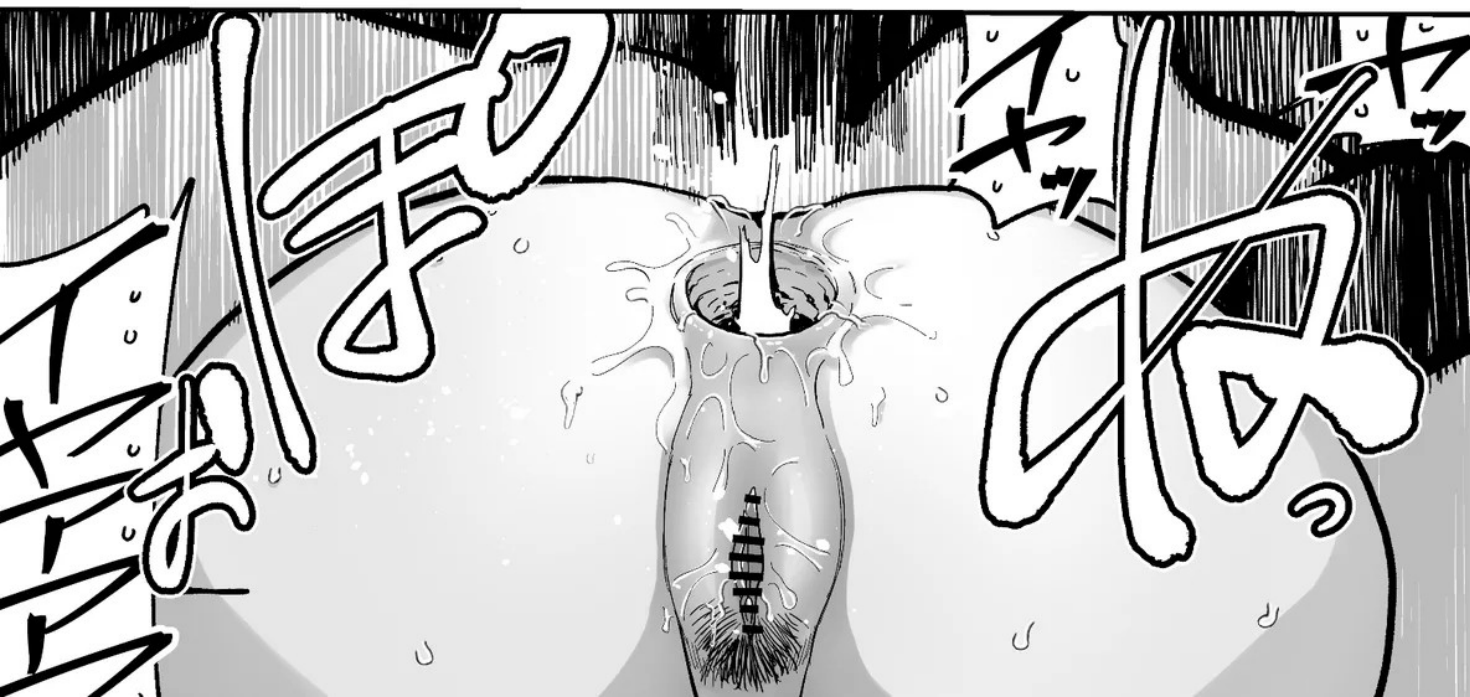
アタシも…
イツ…くう…

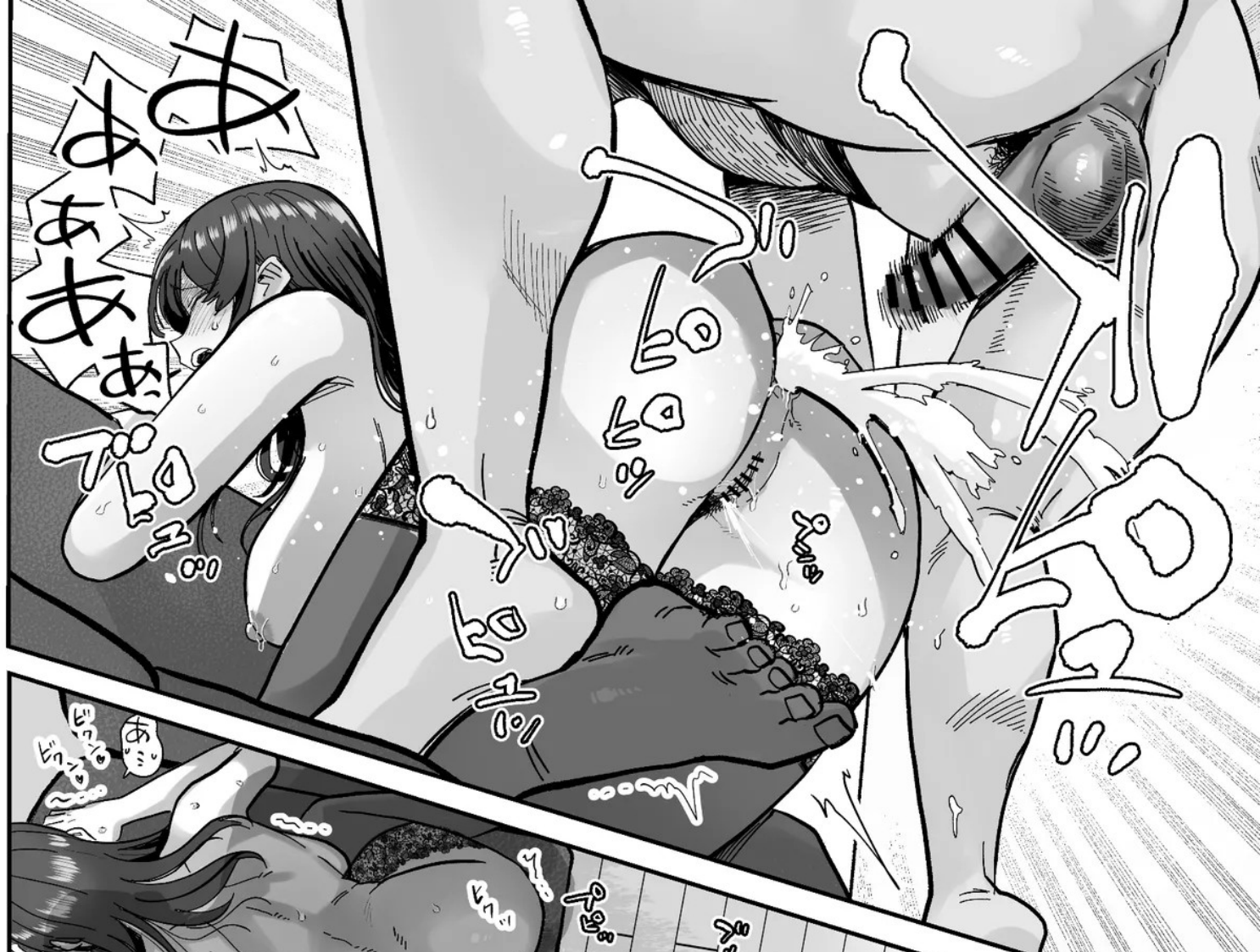
ケツ奥で
堪能しろ！

ありがとうございます……！

先生の精子…
ご馳走に
なりますう…!!







初めてにして
この開花ぶり…

末恐ろしい
アナルだ

残す
契約期間は
3か月—

これまでに以上に
丹精込めて
調理していくぞ





契約が切れるまで
アタシは演じるだけ—



アタシは
恵三さんの妻

これまでも
これから
それは変わらない



快楽に溺れた
愚かな女の
演技をする
だけだから—

その後は
きつと
また日常に
戻れるから—

絶対大丈夫
だから—

もう少しだけ
待ってて—

恵三さん—





系統

この作品はフィクションです。
実在の人物・地名・団体等は一切関係ありません。
この作品含む弊社著作を無断で掲載及び配信することは禁止しております。

著：超苦鉄質岩(サークルMAFIC)